

2017年3月期(121期) 決算説明資料

グンゼ株式会社
(証券番号 3002)



1. 2017年3月期 決算概要

連結業績

(単位:百万円)

	2017年 3月期	2016年 3月期	対前期		利益率(%)	
			増減額	増減率 (%)	2017年 3月期	2016年 3月期
売上高	136,579	138,324	△1,745	△1.3	—	—
営業利益	4,206	3,662	543	14.9	3.1%	2.6%
経常利益	4,671	791	3,880	490.5	3.4%	0.6%
親会社株主に 帰属する 当期純利益	3,102	-1,201	4,304	—	2.3%	—

→ 営業外損益 (デリバティブ評価益) : 517百万円

→ 固定資産減損損失 : △2,303百万円、固定資産除売却損益 : 1,441百万円

機能ソリューション事業

(単位:億円)

対前年 増減		主なポイント
売上高	△60	<ul style="list-style-type: none"> ◆ プラスチックフィルム分野は、シュリンクフィルムが好調、中国での市場開拓や工業用途が堅調に推移。 ◆ エンジニアプラスチックス分野は、非OA市場向け製品は好調に推移したが、OA市場向け製品は苦戦。 ◆ 電子部品分野は、構造改革を継続するも、タッチパネル、フィルム市場の競争激化で苦戦。 ◆ メディカル分野は、北米向けが引き続き好調で、国内・中国向け販売も順調に推移。
営業利益	0	

アパレル事業

対前年 増減		主なポイント
売上高	35	<ul style="list-style-type: none"> ◆ インナーウェア分野は、レディスインナーを中心に差異化商品拡販と成長販路拡大により順調に推移。 ◆ レッグウェア分野は、主カブランドのサブリーナが全体を牽引。 ◆ アパレル小売事業の(株)ジーンズ・カジュアルダンと(有)伊達デパートを連結範囲に含む。
営業利益	3	

ライフクリエイイト事業

対前年 増減		主なポイント
売上高	5	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 不動産分野は、「グンゼタウンセンターつかしん」は近隣商圈の競争激化の影響はあったものの、マスターリース事業や賃貸住宅事業が貢献。 ◆ スポーツクラブ分野は、出店効果により売上は増加したものの、初期費用の影響を受け微増益。
営業利益	1	

I-3. セグメント別業績

セグメント別業績

(単位:百万円)

	売上高			営業利益 (下段: 利益率)		
	2017年 3月期	2016年 3月期	増減	2017年 3月期	2016年 3月期	増減
機能 ソリューション	50,195	56,171	△5,975	3,468 6.9%	3,440 6.1%	28 0.8
アパレル	71,629	68,164	3,465	2,505 3.5%	2,232 3.3%	272 0.2
ライフ クリエイティブ	15,168	14,635	533	1,322 8.7%	1,221 8.3%	101 0.4
合計	136,579	138,324	△1,745	4,206 3.1%	3,662 2.6%	543 0.5

I-6. 特別損益

(単位:百万円)

	2017年 3月期	2016年 3月期	増減
固定資産除売却損益	1,441	-22	1,463
事業構造改善費用 (電子部品等)	-446	-495	50
固定資産減損 (電子部品)	-2,303	-1,326	△917
有価証券売却益	314	0	314
その他特別損益	-362	245	△608
特別損益合計	-1,356	-1,598	242

I-7. 主要財務・経営指標(連結)

	単位	2017年 3月期	2016年 3月期	増減
ROA:総資産営業利益率	%	2.5	2.1	0.4
ROE:自己資本当期純利益率	%	2.9	△1.1	4.0
総資産	百万円	169,460	169,749	△289
自己資本	百万円	108,153	105,158	2,995
自己資本比率	%	63.8	61.9	1.9
有利子負債額	百万円	28,469	31,407	△2,938
BPS : 1株当たり純資産	円	578.48	562.44	16.04

キャッシュフロー

(単位:百万円)

	2017年 3月期	2016年 3月期	増減
営業活動	13,832	11,775	2,057
投資活動	△7,834	△12,046	4,212
FCF	5,998	△271	6,269
財務活動	△4,116	△1,274	△2,841

■ 主な営業CF

税金等調整前当期純利益	3,315
減価償却費	6,861
売上債権の減少	1,121

■ 主な投資CF

固定資産の取得	△9,023
固定資産の売却	3,534
事業譲受による支出	△1,419

■ 主な財務CF

長短借入金及びCPの減少	△2,412
配当金の支払	△1,583



Ⅱ. 事業セグメント別の概況

◆ 機能ソリューション事業 1

■ プラスチック

事業環境の変化に伴う新市場、新商品開発を推進

◆ 製品群	概況
平板収縮	<ul style="list-style-type: none"> 国内と東南アジアルートが好調に推移
OPP	<ul style="list-style-type: none"> 第3四半期以降カット野菜向けが好調に推移したが、原料安に伴う販売単価ダウンの影響を受ける
複合ナイロン	<ul style="list-style-type: none"> 耐寒・耐ピンホール新商品好調も、輸出用途の代理店在庫調整で不振
多層	<ul style="list-style-type: none"> IoT用途好調を受けて受注が回復



■ 複合ナイロン新商品

■ エンジニアリングプラスチック

主力OA商品の成熟化対策と
繊維技術活用製品の拡大による新市場創造

◆ 製品群	概況
カラー中間転写ベルト	<ul style="list-style-type: none"> マルチファンクションプリンター販売停滞の影響を受ける
フッ素樹脂チューブ	<ul style="list-style-type: none"> OAセットメーカーの減産の影響を受ける
一般産業用途	<ul style="list-style-type: none"> 半導体製造用途は好調を維持、医療用途も好評



■ フッ素樹脂
小口径収縮チューブ

◆ 機能ソリューション事業 2

■ 電子部品

グループ生産工場の再編・合理化等の構造改革と組織体制の再構築による販売力の強化

◆ 製品群	概況
抵抗膜方式	• メインユーザーのPCAPシフトの影響で売上減
PCAP完成品	• 教育端末や企業向けPCAPは好調も、大型案件の失注が響く
フィルム販売	• UVカットOCAはメタルメッシュセンサーの相性が良く堅調に推移 • 受託加工ビジネスの拡大を急ぐ



■ ウェットコーティングシステム

■ メディカル

新工場建設など積極的な経営資源の投入と事業拡大に向けた商品開発・販売体制整備

◆ 製品群	概況
組織補強材	• 米国向け部材が伸長、シートタイプも日本およびアジアで好調に推移
骨接合材	• 中国での医療費抑制政策の影響で苦戦
人工皮膚	• 欧州開拓が進展、中国も堅調に推移
縫合糸	• 海外（中南米）での積極的な受注獲得で伸長



■ 組織補強材(シート)

◆ アパレル事業

■ インナーウェア分野

差異化技術による重点ブランド拡販で成長確保
生産構造改革の継続推進

● 差異化技術商品が好調

- メンズ
- 成長チャネル（EC、SPA、新規ルート）が大きく貢献
 - 「BODYWILD」は、新販路拡大で引き続き好調

- レディース
- 完全無縫製を中心とした「KIREILABO」、「Tuche」の大幅伸長が全体を牽引



■ cocochi select by GUNZE
大阪なんばウォーク店(4/28出店)

■ レッグウェア分野

市場トレンドと消費者潜在ニーズを先取りした新市場・新商品の開発推進

● 事業領域拡大および販路拡大が順調

- プレーンストッキング市況は悪化するも、「SABRINA」は定番拡大により好調を維持、タイツは暖冬の影響を受けた
- メンズ・キッズレギパン展開によるトータルMD推進で、成長を持続
- 商品優位性の高いフットカバーが伸長し、単価アップが進む



◆ ライフクリエイイト事業

■ 不動産関連分野

● SC事業の現況

- ・ ファッション衣料の苦戦が続きファッションテナントの売上は低調
- ・ ショッピングモール「エルミこうのすショッピングモール」(埼玉県鴻巣市)のマスターリース事業が収益貢献

● 不動産ポートフォリオの見直し

- ・ 永田町賃貸ビルの売却(千代田区永田町)
- ・ 第二SKビルの取得(中央区日本橋)

■ スポーツクラブ分野

● 既存店の営業状況

- ・ 広島祇園店(4月開業)、京都八幡店(7月開業)の増収効果

● 新店の出店状況

- ・ 富山レガートスクエア店(2017年4/1開業)
- ・ 吹田ミリカ店(2017年4/1開業)



■ エルミこうのすショッピングモール
(埼玉県鴻巣市)



■ 吹田ミリカ店(大阪府吹田市)



Ⅲ. 今後の見通し

Ⅲ-1. 2017年度経営方針

『心 技 体』の研鑽と充実により 目標に挑戦する

1. 売上拡大による成長回帰
2. 「NExT運動」の推進と生産効率の向上
3. 自ら挑戦するチーム風土の実現

Ⅲ-2. 2018年3月期連結業績予想

業績予想

(単位:百万円)

	2018年3月期 (122期) 連結		2017年3月期 (121期) 連結		対前年	
	業績予想	利益率	実績	利益率	増減	増減率
売上高	138,000		136,579		1,421	1.0%
営業利益	4,300	3.1%	4,206	3.1%	94	2.2%
経常利益	4,800	3.5%	4,671	3.4%	129	2.8%
親会社株主に 帰属する 当期純利益	2,500	1.8%	3,102	2.3%	△602	△19.4%

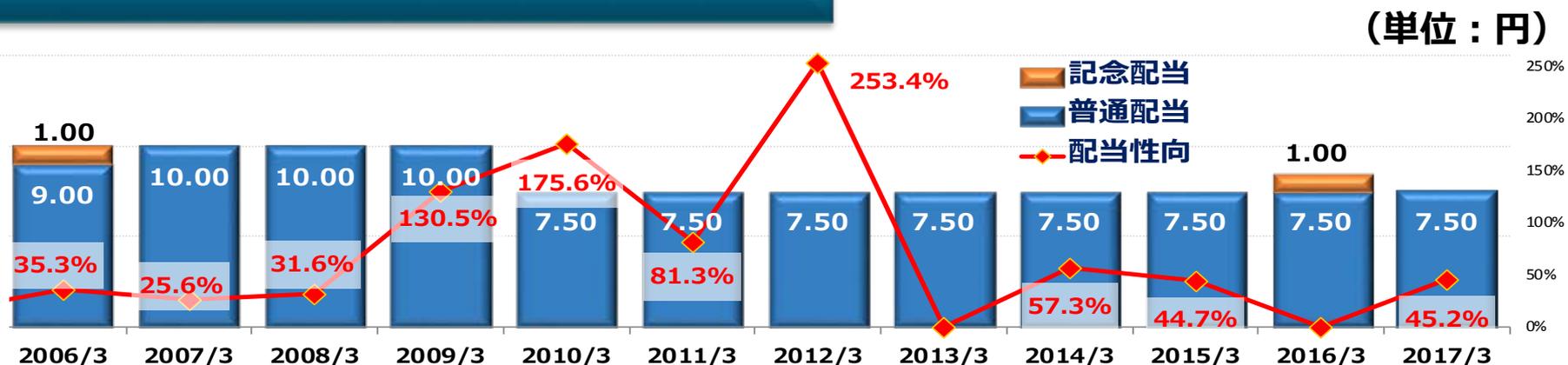
第122期(2018年3月期)配当は、7.5円／1株を予定しております。

セグメント別の対前期比較

(単位:百万円)

	売上高			営業利益 (下段: 利益率)		
	2018年 3月期	2017年 3月期	増減額 (率, %)	2018年 3月期	2017年 3月期	増減額 (率, %)
機能 ソリューション	48,800	50,195	△1,395 △2.8%	3,600 7.4%	3,468 6.9%	132 3.8%
アパレル	73,300	71,629	1,671 2.3%	2,700 3.7%	2,505 3.5%	195 7.8%
ライフ クリエイト	16,400	15,168	1,232 8.1%	1,500 9.1%	1,322 8.7%	178 13.5%
合計	138,000	136,579	1,421 1.0%	4,300 3.1%	4,206 3.1%	94 2.2%

1 株配当金と配当性向の推移



自社株の状況



CAN 20 第2フェーズでは、連結配当性向50%、総還元性向100%を目途に利益還元を行う方針です。当方針の前倒しとして、今回より自己株式取得を実施します。

明日をもっと、こちよく

GUNZE

本資料のうち、業績見通し等に記載されている内容は、現在入手可能な情報による判断に基づいたものであり、記載された将来の計画数値、施策を保証するものではありません。